

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	29 / 1985 / 36-39
タイトル	プラナリア採集レポート
著者名	三川智子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

「アライア採集レポート」

1年 三川智子

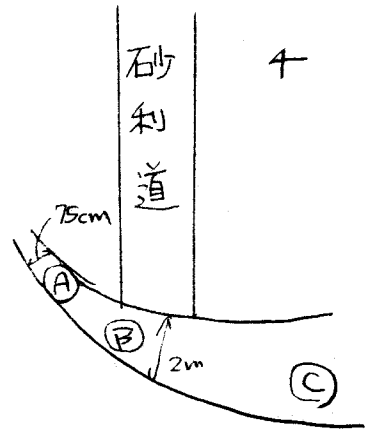
9月1日(日)

hour 10:00 ~ 11:20

ph. 6 水温 18°C

気温 23°C

place 迎田貝沢



☆ 採集に行ったあらし

今年の夏休みに、種類と数が豊富になったアライア(特にナミウスムシ)を無残にも崩壊させてしまいました。そこで、本当は採集の時期ではないのですが、残りの個体はとても冬を越せないのが台風が近く一面風の強い日に、はるばる迎田貝へ足を運びました。

A 地点

ままた大きな石の多いA地点は、流れが少し早く深さは約10~20cmぐらいでした。大きな石をひっくり返しても、1,2個体しかついていないので、結局30分ぐらいたつて10数個体しか採れませんでした。

そこでポイントをB地点に変えました。

B 地点

B地点はAに比べ、大分流れがゆるやかで、石も小さかったです。川のふちの小さな石をひっくり返すと、34個体はついていたので、このあたりでだいたい50個体ほどとりました。

C 地点

C地点は、砂利道を越えての場所で、なぜか大きな石が多かったのですが、やはり流れがゆるやかだったからでしょうか、B地点と同様にたくさんとれました。どうやらB、C地点がポイントのようです。

さて、次に種類別と長さ別の個体数についての資料といきたいところなのですが、その前にみなさまに謝らなければいけません。というのも、だいたい100個体ほど、採集してきたのですが、家の冷蔵庫でびんの中に入れておらずに一晩置いて、酸欠でまた、崩壊させてしまいました。そこで資料といっても、生き残った11個体の長さで、私の乏しい記憶からでしかありません。

とりあえず長さは

0.5 cm	2個体	0.8 cm	1個体
0.6 cm	3個体	0.9 cm	1個体
0.7 cm	2個体	1.1 cm	2個体

という結果です。ちなみに全部ナミウズムシを捕した。
そして記憶のかきりぶは、採集したとき、ナミウズ
ムシしか見ていません。カズメウズムシや、ミヤマ
ウズムシも採れると思っ、ていたのですが、どうも修
業が足りなかつたため、さがし出せなかつたのだと思
います。

生き残ったアラナリアを恥おかしながら、祥吾先
輩に見せたり、

「秋のアラナリアって小さいんね。」

という言葉。

来年、同じ所と2回以上行くことを決めて、季節
ごとのアラナリアの長さや個体数の関係を調べてみ
ようと思ひます。

感想

遅く台風が近くて、向かい風と戦い、坂道と戦
い、採集してきました。うまくいけば去年の資料と
見比べて、いろいろ推測できるのでは、と期待して
いたのですが、意表をつかれて、こんな見苦しい経
足におわれました。うぬさにきいた迎田君に初めて
いったのですが、アラナリアの採集地というところ
なのに、女世かえば、ブルドーザーがせめしなく動
いていました。そしてあの狭い砂利道を、大型トラ
ックが……。

このようにしてだんだん自然が失われていく
のではないかと。

私たちも、研究のためとはいえ分解者たるア
ラナリアをたくさん採集してきました。死ぬまで飼
っておくというのは自然環境に関係ないのでし
ょうか。元にかえすことを忘れてはいけないと
思います。

RS

私も赤いアラナリアを1個体見つけました。
しかしどこにも糸ミミズらしきものは見あたり
ませんでした。それが私の採し方が悪いとい
うことが原因ならばよいのですが……。